

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]
作成日 平成21年4月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4090100043		
法人名	有限会社 田代総合サービス		
事業所名	グループホーム なごみ吉志		
所在地 (電話番号)	北九州市門司区吉志1丁目8番42号 (電話) 093 - 481 - 8833		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	平成21年5月2日

【情報提供票より】(平成21年3月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 10 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 5.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨スレート葺き 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	(高熱水費) 15,500 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1月当たり 34,500 円		

(4) 利用者の概要(3月15日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 80.9 歳	最低 65 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	曽根慈恵病院・菜の花クリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームなごみ吉志は、運営者の長年の思いであった地域社会への貢献という役割を担うために、自然豊かな門司区吉志地区に、1階は小規模多機能施設、2階がグループホームとして開設されている。広いリビングを中心として、生活機能維持を目的に設計されており、安全で暮らしやすい空間となっている。入居から最期の時まで、一人ひとりのライフスタイルを大切に、普通に・穏やかに・充実した生活を送っていくことを目標に、「ここに来てよかった」と言ってもらえるような支援を目指して、管理者やスタッフ一同方針を共有し、実践している。専門職として、入居者の健康管理に携わる運営者は、医療連携体制の中心的役割を果たし、24時間安心できる体制を維持している。社会や地域との交流にも積極的に取り組み、自治体職員や大学生の研修の受け入れ体制を整えている。地域住民や自治体との連携により、近隣の高齢者世帯との関係を深めていくことを検討しており、今後の取り組みが楽しみなグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の検討事項として、職員の研修の充実が課題として挙げられており、職員のシフト調整を図りながら、外部研修への参加を積極的に行っている。その結果が少しずつ日々の実践に活かされてきており、サービスの向上へとつながっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に取り組む中で、地域住民との交流を一方的でなく、お互いが支え合う交流に発展させていきたいと考えている。また、入居者が安心して暮らせるよう、医療面の技術向上も課題としている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回定期開催している。ホームの事業報告を行い、入居者や家族の要望を聴いたり、地域の行事参加への検討を行うなど、家族や地域住民、行政職員との意見交換の機会として、大切に考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	運営推進会議や家族会などで、職員と本人・家族との意見交換の機会は設けている。意見や不満・苦情を言い出し難いと言う事を理解し、職員や事業所は、本人・家族から積極的に意見を聴く努力や、場面作りに努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域行事に参加したり、ホームの行事に近隣の方々に参加してもらい、歌や三味線・琴の演奏を披露してもらうなど交流が広がっている。今後は入居者の希望により、老人会への参加を働きかけたり、幼稚園や小中学校生との交流を深めていきたいとしている。また地域住民、地域包括支援センターとの協働により、近隣の高齢者世帯と事業所の関係性強化に向けての取り組みを行おうとしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「人として尊厳を持って、家庭や地域の中で安心して、その人らしい自立した質の高い生活を送る」～住み慣れたところで・なじみの人と・やりたいことを～という理念を掲げ、運営方針として、地域密着型サービスとしての意義・役割を明確に示している。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念を具体化するために「目配り・気配り・心配り」が日々の支援で実践できるように、ミーティングやモニタリング時に周知を図っている。また、本人や家族に対してもパンフレットをもとに説明し、共有に努めている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	福祉センターでの歌謡ショーなどに、地域の方々と一緒に参加したり、ホームの行事にも参加を案内し、少しずつ交流が盛んになっている。また近隣の老健施設の夏祭りへの参加では夜の外出を楽しみ、夜店での食事や花火大会など、昔の思い出と重なり、大変喜ばれている。		今後は、近隣の幼稚園や小中学校の行事への参加を計画している。また地域貢献として、地域住民及び地域包括支援センターとの協働により、地域の高齢者世帯への支援を検討しており、今後の取り組みに期待します
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	前回の評価の課題である「職員の研修の充実」は、内部研修の充実と、外部研修への参加を計画・受講し、具体的な改善に取り組んでいる。今回の評価についてもスタッフ間だけでなく運営推進会議で報告し、委員の意見や助言を得る予定としている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は2ヶ月に1回定期開催している。ホームの事業報告を行い、入居者や家族の要望を聴いたり、地域の行事参加への検討を行うなど、家族や地域住民・行政職員との意見交換の機会として、大切に考えている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム なごみ吉志

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	自治体の職員や街づくり協議会、大学生などの研修を受け入れており、協働関係を築きながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在入居者が制度を活用しており、適切な支援が行えるように、職員の理解を深めるよう随時説明・アドバイスを行っている。職員の外部研修への積極的な参加を促し、ミーティングや会議等で共有している。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	家族来訪時に、家族全体への案内や運営推進会議の内容などを報告するために、カウンターに資料を用意している。また個々についての報告は、日常生活の様子や健康状態、金銭出納帳などを報告、確認してもらっている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	運営推進会議には本人や家族も参加しており、定期的な家族会も開催し、意見交換や要望を聴き、サービスの向上に反映させている。今後も気軽に意見交換ができる関係づくりに取り組んでいく考えである。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	入居者が馴染みの職員による支援を受けられる様に、事業所間の異動は行っていない。やむを得ず離職が発生した場合には、本人・家族に十分に説明し、新人職員への引き継ぎでは、一日の流れや行動を入居者に説明してもらうなど、馴染みの関係づくりへの配慮を行っている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、特に条件はつけていないが、入居者への気づかいや配慮の出来る人を採用している。同様に職員間でも大切にしており、日々お互いが実践する事が人権尊重につながると考えている。また研修や資格取得についても、個々の希望や能力にあわせた支援を行っている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム なごみ吉志

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	職員採用時や会議において、人権教育・啓発活動に取り組んでいる。また入居者一人ひとりの生活援助時に、常に情緒面・精神面への配慮を行う事で人格が尊重され、その事が理念の実践につながる事をスタッフは認識し、共有している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	職員教育はサービス向上だけでなく、自己実現の為に重要である事を認識し実行している。内部研修では1階の小規模多機能施設で実習を行い、介護区分が同じでもそれぞれに対応が異なる事を認識してもらい、個別性の支援の大切さを体得してもらっている。また、外部研修も積極的に参加している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	県のグループホーム協議会への参加や、近隣の老健施設やグループホームとのネットワークを構築し、職員の研修や交流の機会とするだけでなく、入居者の行事参加なども行い、サービスの向上を図っている。また同業者の訪問等も気軽に引き受けている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	サービス利用についての相談があった場合は、家族を交えて心身の状況や要望を傾聴し、訪問や見学を通じて、顔馴染みの関係を築き、安心して入居できるように、本人本位の柔軟な支援に努めている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者一人ひとりの思いや生活歴を尊重し、人生の先輩である事を大切に、共に過ごす事で、お互いが認めあい、支えあい、信頼関係が自然に築かれている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム なごみ吉志

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	日々の生活の中で、入居者の言語的・非言語的な表現を見逃さず、それに対する支援が適確かどうかを判断する為にも必ず記録し、それをもとにミーティングなどで職員全員が検討し、共有出来るようにしている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	計画作成については職員全員で検討会議を行い、本人の身体状況への支援だけでなく、センター方式を活用し、本人・家族の要望等が反映された、個別・具体的な計画になるように心掛けている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	入居1ヶ月後に、改めて既存の計画が適当であるか検討し、必要あれば修正し、ホームでの生活が安心して過ごせるように支援している。その後は、3ヶ月に1度モニタリングを実施し、追加事項の検討を行っている。状況に応じた計画変更は随時行っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	医療連携体制により、入居者のよりよい生活の継続に向けて、柔軟な支援を行っている。また、介護保険事業に関する人材教育や、研修の場としての役割を引き受けている。今後は近隣の高齢者マップを作成し、事業所として支援出来る事項の検討を行う予定である。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	定期的な受診ではホームでの情報を伝え、より適確な支援が得られるように心掛けており、必要であれば専門医への受診支援も行っている。常に健康維持や治療への支援を行い、本人・家族の安心につながっている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム なごみ吉志

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期への対応については入居者の要望を尊重し、「看取り」についてのマニュアルを作成し、医療スタッフや家族の協力を得て、必要となった場合には対応出来るようスタッフ全員で方針を共有している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	プライバシーについては、人間の尊厳に関わる事項であり、決して損ねる事がない様心掛けている。日々の暮らしの中で、自立たず、さりげない言葉掛けや対応を心がけている。個人情報についても法令順守に努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	一日の基本的なスケジュールは決めているが、一人ひとりの生活習慣や体調に合わせ、その時々を尊重し、状況に応じた支援が出来るよう心掛けている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	調理や盛り付け、後片付けは、生活の一部としてできる範囲で共に作業を行っている。嗜好品についても、入居者の楽しみとして、お酒などを買い物に出かけ柔軟に支援している。週に1回は入居者と食材の買い物に行き、好みのメニューを取り入れている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本的に週3回の入浴日を決め、一人ひとりに「気持ちよかった」と言ってもらえるように、ゆっくりと行き届いた支援に努めている。入居者の希望や季節などの状況に応じて、シャワー使用は随時可能にしている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム なごみ吉志

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者が一日の生活に自ら参加でき、生活リハビリとして活かせる様、毎朝の食事のメニュー書き・食事の準備・洗濯物たたみ・縫い物などや、季節に合わせた壁掛けの作成・カラオケ大会など、個人で行う事や全員でする事など多々ありそれぞれの能力や好みで参加している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	戸外の風や空・雲の色、道端の草花など、季節の変化を肌で感じてもらい、心身の活性化に繋がるように、天気の良い日は、日常的に散歩を行っている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員は見守りの方法を徹底し、その日の気分や状態を、きめ細かくキャッチする事で、安全面に配慮した自由な暮らしを支援している。また外出希望者には無理に止めるのではなく、さりげない声かけや、一緒に行動するなどの配慮を行っている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	災害対策マニュアルに基づき、年2回定期的に地域住民や消防署の協力を得て避難訓練を行っている。また消防設備の点検や避難経路の確保などを定期的に行っている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食材は専門業者より納入され、栄養バランスに配慮されたメニューとなっている。個々の摂取量や摂取状況・水分摂取量なども毎日記録し、健康管理へ連動させている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム なごみ吉志

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間では入居者が自然に集う場所として、ソファや畳スペースを設け、季節の飾りや香り(ゆず湯・菖蒲湯・桜餅など)、生活感(ご飯の炊ける匂いなど)を意識的に五感で感じることができるよう支援している。また家具の配置等は入居者と共に考え、自分の家だという意識を高めてもらえるように工夫している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は、一人ひとりの身体状況や個性に合わせ、これまでの生活環境に近づいた生活ができるよう支援している。家族の協力を得て、家庭で使用していた家具や備品を持参して頂き、落ち着いたくつろげる部屋となっている。入居者が部屋の案内を自然の形でして下さった事も印象にのこっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			